

アカデミックスキルズ

概要

短期大学で学ぶために必要なアカデミックスキルと基礎力の強化を目的とする。全員で学ぶ講義形式、輪講式、各顧問別の授業、体験型ワークショップ、プレゼンテーションなどの組み合わせによって、総合的な「学ぶ力」を養成する。

担当教員	木川田・他キャリア教養学科全教員
授業形態	講義
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	45分×30回
単位数	2

目標

本科目で学んだことを、常に他科目の学習やさまざまな場面で応用し、自らの「学びスタイル」を模索し、構築できるようになること。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. ノートテイキングのしかた(1)～ノートは何のためにあるか～
3. ノートテイキングのしかた(2)～それぞれのノートテイク工夫点・相違点～
4. ノートテイキングのしかた(3)～総括：ノートテイクからの気づき～
5. レジユメの活用法
6. レジユメを作ってみよう(1)
7. レジユメを作ってみよう(2)
8. 学生像の国際比較～私が感じた外国の大学～
9. 輪講式授業(第1週目)＜インターネット活用法/図書館活用法/英語の勉強法/アクティブな学習に向けて/新聞の読み方＞
10. 輪講式授業(第2週目)＜インターネット活用法/図書館活用法/英語の勉強法/アクティブな学習に向けて/新聞の読み方＞
11. 輪講式授業(第3週目)＜インターネット活用法/図書館活用法/英語の勉強法/アクティブな学習に向けて/新聞の読み方＞
12. 輪講式授業(第4週目)＜インターネット活用法/図書館活用法/英語の勉強法/アクティブな学習に向けて/新聞の読み方＞
13. 輪講式授業の振り返り
14. 先生たちのオススメ勉強法
15. アカデミック・スキルズ前期総括
16. アカデミックスキルズ後期の概要
17. 読解のスキルとレジユメ作成(1)
18. 読解のスキルとレジユメ作成(2)
19. プレゼンテーショントレーニング(1)～プレゼンテーションとは何か～
20. プレゼンテーショントレーニング(2)～プレゼン方法のディスカッション～
21. プレゼンテーショントレーニング(3)～プレゼンの構成づくり～
22. プレゼンテーショントレーニング(4)～ビブリオバトルの技法を用いたプレゼン実践～
23. 英語でプレゼンテーション練習
24. 英語でプレゼンテーション演習～Recitation Contest～
25. ダウンサイジングとは
26. ダウンサイジング演習
27. 研究テーマのダウンサイズ
28. 特別研究は何のためにあるか
29. 2年次のカレッジライフの展望づくり～2年次の履修ガイダンス～
30. アカデミック・スキルズの年間総括

アカデミックスキルズ

準備学習

事前に指示されたことを予習しておくこと。

評価方法

出席状況および授業への参加態度30%
ふりかえりシート70%

教科書

特になし。

参考文献

必要があればその都度、紹介する。

文化人類学 A

概要

我々は誰も自分のことは自分が最もよく知っていると思いがちだが、自分という存在がどのような文化のなかで生きてきたかを省みる機会は少ない。また、誰も「我々」と「彼ら」という二分法でモノゴトを語りがちだが、その「彼ら」が自分とは異なる文化で生まれ育ってきた人間ならば、お互いにどこまで通じ合えるかという問題が、現代生活には常につきまとう。だからこそ我々は「自己・自文化」と「他者・異文化」の間をつなぐ思考をどこかの時点で築き上げておかねばならない。そのために、この授業では文化をめぐる諸問題に関して蓄積を重ねてきた文化人類学の学術的知見を通じて、自分の想像できる世界の幅を広げることを目指す。

担当教員	田中大介
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回（試験を除く）
単位数	2

目標

この授業の目標は、人間・社会・文化を深く見つめていくための視点と知識を、文化人類学の基礎理論や各地の文化的事象を通じて獲得することにある。学説の歴史的展開なども重視するが、知識の摂取だけを重視するのではなく、文化人類学の流儀と技法を実際の生活に応用していくためのケーススタディも盛り込む予定であり、全15回の授業を通じて「自文化と異文化」を往復できる実践的な視点を深めていく。

各回の内容

1. 人間・社会・文化
2. 文化人類学とは何か
3. 文化人類学とは何か
4. フィールドワークの神様と呼ばれた男
5. フィールドワークの神様と呼ばれた男
6. 機能主義の広がり
7. 機能主義の広がり
8. 機能主義の広がり
9. 文化人類学の黎明期
10. 文化人類学の黎明期
11. 新進化主義
12. 構造主義
13. 構造主義
14. 自文化／異文化の理解に向けて
15. 自文化／異文化の理解に向けて
16. 試験

準備学習

履修に際しての特別な知識は不要だが、理解を深めるためにも、授業の終了後は適宜復習しておくことを強く推奨する。また、学問と向き合うに足る知的関心・積極性・倫理観を有していることが履修の前提となる。

評価方法

最終テスト50%、中間テスト30%、および講義における課題20%を総合的に評価する。

教科書

特になし。必要な教材や資料がある場合には、授業中に配布する。

参考文献

特になし。さらに深い知識を得るための参考文献がある場合は、別途指示する。

文化人類学 B

概要

前期開講の文化人類学Aは基礎的理論の習得を主な目的としていたが、この文化人類学Bでは応用編としてグローバリゼーションをめぐる問題を探究する。グローバリゼーションという概念は民族・科学技術・経済・宗教・情報などの広汎な次元に及ぶものであり、したがって今日の世界を理解するためには複眼的な洞察力が要求されるのは論を待たない。それでは、グローバリゼーションという現象をどこかで起きている他人事ではなく、自分の生活に食い込んでいる諸要素として読み解こうとする時、我々はそこにどのようなメカニズム（仕組み）とダイナミズム（動き）を垣間見ることができるのだろうか。この講義で、積極的に「新たな世界のかたち」の発見に努めてもらいたい。

担当教員	田中大介
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回（試験を除く）
単位数	2

目標

この講義は応用編として位置付けられるため、前期で習得した文化人類学理論の批判的検討にも重点を置く。これは、グローバリゼーションというテーマを通じて、学問的な思考方法を生活にフィードバックするという目標に基づいている。したがって、毎回の講義の中で実際の社会現象などを盛り込みながら、主要な理論と結びつけた上で考えていくという段階的な手順を経ることにより、各自の問題意識を掘り起こしていくことを目指したい。

各回の内容

1. グローバリゼーションとは何か : その構図と文脈
2. グローバリゼーションとは何か : 「近代」を考える
3. フローとネットワーク: 流れる・つながる・伝わる
4. グローバル・スケープ : 5つの風景から
5. グローバル・スケープ : 文化の多元性
6. 国境・国民・国家 : ネーションの現在
7. 国境・国民・国家 : 共同体のゆくえ
8. 国境・国民・国家 : 揺れ動く領域、移動する人間
9. エスニシティを見つめる : 行為主体とは誰なのか
10. エスニシティを見つめる : マイノリティの政治
11. 社会問題としてのグローバリゼーション: 摩擦から抵抗へ
12. 場所と非・場所: 脱領土化をめぐる議論
13. 文化とコミュニケーション: 再帰性、あるいは現代生活の技法
14. リスク化する現代社会
15. リスク化する現代社会
16. 試験

準備学習

履修に際しての特別な知識は不要だが、理解を深めるためにも、授業の終了後は適宜復習しておくことを強く推奨する。また、学問と向き合うに足る知的関心・積極性・倫理観を有していることが履修の前提となる。

評価方法

最終テスト50%、中間テスト30%、および講義における課題20%を総合的に評価する。

教科書

特になし。必要な教材や資料がある場合には、授業中に配布する。

参考文献

特になし。さらに深い知識を得るための参考文献がある場合は、別途指示する。

労働法制と人権 A

概要

働くこととはどういう意味を持つのか。働くことをめぐってさまざまな問題を抱える労働者に、労働法はどう役立つのか。採用・人事・解雇・賃金・労働時間・雇用差別・労働組合・労働紛争等の基礎知識とともに、欧米職との比較や、近年の新しい動きについて考察する。

担当教員	今野順夫
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

労働法制を学ぶことを通じて、労働現場の実態を知り、いかなる解決をしてきたかについての従来の事例（判例）を理解し、新たに生じている問題についての法的解決の糸口を見つけ出せることを目標とする。

各回の内容

1. 働くことと法
2. 労働法はどのようにして生まれたか（1）労働法の背景・誕生
3. 労働法はどのようにして生まれたか（2）労働法の発展・危機
4. 労働法はどのような枠組みからなっているか（労働法の法源）
5. 雇用関係の展開と法（1）雇用関係の終了
6. 労働関係の展開と法（2）労働関係の成立・展開
7. 労働者の人権と法（1）雇用差別の禁止・労働憲章
8. 労働者の人権と法（2）人格的利益の保護・内部告発の保護等
9. 労働条件の内容と法（1）賃金・労働時間・休暇・休業
10. 労働条件の内容と法（2）安全・健康の確保
11. 労働組合はなぜ必要なのか
12. 労働力の取引はなぜ自由に委ねられないのか
13. 「労働者」「使用者」とは誰か
14. 労働法はどのようにして守られるのか
15. 労働法はどこへいくのか
16. 試験

準備学習

労働に関する新聞記事をよく読んで、労働現場に起きている事実を知り、いかに解決すべきかを、自ら考えてみる。

評価方法

筆記試験50%、毎講義時間提出の意見等（質問・感想）30%、レポート提出（2回）20%

教科書

なし。
毎回レジュメ&資料を配布する。

参考文献

水町勇一郎『労働法入門』（岩波書店）

労働法制と人権 B

概要

社会人生活のさまざまな場面を想定しながら、労働者の人権を守るためにどのような法が整備されているのかを実態に即して学習する。労働とジェンダーやブラック企業対策、雇用流動化とワーキングプアなど現代日本の労働をめぐるテーマを学ぶほか、トピック研究では時事問題等を取り上げ労働者の人権の観点から議論を行う。

担当教員	前川直哉
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

労働をめぐる諸課題と労働法について学ぶことを通じ、労働者の人権を守るために現状の法制度で何ができるか、また今後どのような法の整備が必要かについて知識を獲得し、考えることができる。その上で「労働法の権利行使は「社会人としてのマナー」である」（今野晴貴『ブラック企業2』文春新書）とのスタンスに立ち、就職後に不当な境遇に陥らないための実践的な学びを得ることができる。

各回の内容

1. 労働法の歴史と理念
2. 採用と解雇、人事
3. 賃金と労働時間
4. 長時間労働
5. 労働と人権に関するトピック研究（1）
6. 労働組合と労働争議
7. 労働とジェンダー（1）男女雇用機会均等法
8. 労働とジェンダー（2）育児・介護休業法
9. 労働とジェンダー（3）セクシュアル・ハラスメント
10. 労働と人権に関するトピック研究（2）
11. ブラック企業とその対策（1）
12. ブラック企業とその対策（2）
13. 雇用の流動化とワーキング・プア（1）
14. 雇用の流動化とワーキング・プア（2）
15. 労働と人権に関するトピック研究（3）

準備学習

毎回の授業後、内容の復習をしておくこと。また日頃より労働問題に関するニュースに関心を持ち、自分事として考える習慣をつけると良い。

評価方法

授業内ワークシート50%、課題レポート50%

教科書

指定しない。授業中にレジユメを配布する。

参考文献

水町勇一郎『労働法入門』岩波新書、今野晴貴『ブラック企業』『ブラック企業2』ともに文春新書、山本勲・黒田祥子『労働時間の経済分析』日本経済新聞出版社ほか、授業中にその都度紹介する。

社会調査法入門

概要

この講義では、社会調査のなかで特に「質的調査」として分類されるアプローチの理論と実践的技法を学ぶ。私たちは日常生活において、大なり小なり常にモノゴトの選択を迫られているが、それに対して「ただ何となく」という印象だけで行動を決めてはいないだろうか。あるいは、自らにとって大事な方針を定めなければいけないときに、その根拠をしっかりと自分自身で意識できるだろうか。現代社会では、いかに情報を獲得し、理解し、役立てるかが決定的な重要性を帯びているが、この講義を通じて「調べる」ことの楽しさを味わいながら、ぜひ質的調査のアプローチを自らの武器としてもらいたい。

担当教員	田中大介
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回（試験を除く）
単位数	2

目標

「調べる・気づく・省みる」ことの精緻なプロセスを身につける。
「問い」を自ら設定し、それに挑むための技法を習得する。
質的調査の理論を通じて、自己と社会との関わりを見出す

各回の内容

1. オリエンテーション：現代社会における「調査」の意義
2. 社会調査とは何か：調査技法の歴史
3. 社会調査とは何か：行為と理論をつなぐ
4. 質的調査とは何か：データと事実
5. 質的調査とは何か：質的調査と量的調査
6. フィールドワークに向けて：その枠組みと展開
7. フィールドワークに向けて：データから分析へ
8. 中間テスト
9. 参与観察法：「現場」に挑むために
10. アクションリサーチ：問題を解決する
11. インタビュー：「語り」と経験
12. インタビュー：ライフストーリー
13. インタビュー：会話分析
14. 理論化と検証
15. 理論化と検証
16. 試験

準備学習

履修に際しての特別な知識は不要だが、理解を深めるためにも、授業の終了後は適宜復習しておくことを強く推奨する。また、学問と向き合うに足る知的関心・積極性・倫理観を有していることが履修の前提となる。

評価方法

最終テスト50%、中間テスト30%、および講義における課題20%を総合的に評価する。

教科書

特になし。必要な教材や資料がある場合には、授業中に配布する。

参考文献

特になし。さらに深い知識を得るための参考文献がある場合は、別途指示する。

地域形成論

概要

「地域」を形成している要素は何か。そもそも「地域」や「コミュニティ」とは何かを探る。

担当教員	三瓶千香子
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

「地域の活性化」などの言葉を簡単に聞き流すことなく、情報を自分なりにキャッチでき、かつ分析しながら、新たな地域を形成していくための提案ができるようになる。

各回の内容

1. 「地域」「コミュニティ」の定義
2. なぜ今「地域形成」なのか
3. 成熟社会とその課題
4. 自然発生的地縁団体史
5. ボランティアとは何か
6. 現代におけるNPOの存在意義・現状・課題
7. 地域史の学び方・地域の魅力の掘り出し方
8. 地域形成への提案（1）
9. 地域形成への提案（2）
10. 地域形成への提案（3）
11. 人をつなげる地域づくり演習（1）
12. 人をつなげる地域づくり演習（2）
13. 人をつなげる地域づくり演習（3）
14. 「らしさ」とは何か
15. まとめ：一歩踏み出す力を見つける
16. 最終論述考査

準備学習

事前に指示されたことを調べる。

評価方法

グループプレゼンテーション50%、振り返り用紙からみる理解度30%、最終論述考査20%

教科書

特になし

参考文献

その都度、紹介する。

生涯学習概論

概要

学歴社会から学習社会に移行している昨今、何を学び、その学びをどのように生かすのかが問われている。「生涯学習」という言葉はようやく定着してきたが、その中身についてはほとんど語られない。この授業では、生涯学習とは個人レベルの学習から地域づくりまで幅広く、民間や行政がさまざまな努力をして初めて生涯学習社会が構築されていくということを学んでいく。

担当教員	三瓶千香子
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

「ゆりかごから墓場まで」、自由に学習機会を選択し学ぶことができ、その成果が評価される社会において、個々人が自らの生きがいを見つけ、充実した人生を他者と共に学び合うことが生涯学習の主眼であることを理解できる。

各回の内容

1. 生涯学習の基本的な考え方
2. 生涯学習社会構築の必要性
3. 生涯学習社会構築への取り組み調査(1)
4. 生涯学習社会構築への取り組み調査(2)
5. 地域における社会教育・生涯学習施設(1)
6. 地域における社会教育・生涯学習施設(2)
7. 地域における社会教育・生涯学習施設(3)
8. 成年期の学習ニーズとボランティア
9. 団塊世代と生涯学習
10. 高齢者の生涯学習と実践活動
11. 大学拡張論
12. 生涯学習プログラミングの実践(1)
13. 生涯学習プログラミングの実践(2)
14. 生涯学習プログラミングの実践(3)
15. 知識基盤社会と将来の展望
16. 最終試験

準備学習

生涯学習・成人教育に関連するニュースに関心を持つ。グループワークによる生涯学習プログラム調査などに備える。

評価方法

振り返りシートの記述内容20% プレゼンテーション30%、グループワークへの姿勢20%、最終記述試験30%

教科書

香川正弘・鈴木真理編『よくわかる生涯学習』ミネルヴァ書房(2008年)

参考文献

その都度、紹介する。

キャリアマネジメント

概要

ライフキャリア、ワークキャリアを考えるために、まず自己との対話を行う。次に問題解決対応能力や職業興味を考えながら、1年次後期の履修計画を立てる。

担当教員	加藤竜哉・後藤真・山野実
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

- 1)自己の持つ長所や傾向を客観的に分析・理解した上で自律学習に積極的に取り組むことができる。
- 2)職業興味を深めることができる。
- 3)タイムマネジメントとスケジュール管理の具体的手法を身につける、必要な1年次後期からの履修計画を立てることができる。

各回の内容

1. オリエンテーション、各目標、他科目との関係について
2. 導入：構成的グループエンカウンター ～他者と関わるためのキッカケづくり～
3. 自己理解：自分を知り、自分を受けとめる
4. 相互理解：自分を伝えるためのコミュニケーションスキル
5. 帰属感：グループの中のわたし ～貢献し合うチームビルディング～
6. ワークショップまとめ：モノローグからダイアログへ
7. 自分の職業に対する興味を知る
8. 職業興味を深める
9. どんな資格、どんな学問
10. 上手な悩み方とは
11. 問題に対する対応を考える
12. 長期的な目標と短期的な目標設定
13. 計画力をつける、スケジュール演習（1）
14. スケジュール演習（2）
15. 進路決定と1年後半の履修計画：後期授業とのかかわりについて

準備学習

毎回の授業で課された課題をもとに授業を展開することになるので、指示された課題を忘れずに持参すること。

評価方法

参加態度70%：毎回レビューシートに学習内容の気づきや振り返りを記入して提出。
レポート30%：レポート課題は授業時に紹介。
各教員の評価値合計を平均して評価点を算出する。

教科書

なし
適宜、プリント配布

参考文献

上田紀行『生きる意味』岩波新書
渡辺健介『世界一やさしい問題解決の授業』ダイヤモンド社

企業論

概要

企業がおかれた経営環境、企業内で行なわれている様々な仕事等について事例を通して学び、業界や企業活動に対する理解を深める。

担当教員	山野実
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

就職活動を本格化させる前に、企業内の様々な仕事、業界等について理解する。

各回の内容

1. 企業の組織と仕事を理解する(1)
2. 企業の組織と仕事を理解する(2)
3. 企業の組織と仕事を理解する(3)
4. 企業の組織と仕事を理解する(4)
5. 企業の組織と仕事を理解する(5)
6. 様々な業界に対する理解を深める(1)
7. 様々な業界に対する理解を深める(2)
8. 様々な業界に対する理解を深める(3)
9. 様々な業界に対する理解を深める(4)
10. 様々な業界に対する理解を深める(5)
11. 企業・業界研究(1)
12. 企業・業界研究(2)
13. 企業・業界研究(3)
14. 企業・業界研究(4)
15. 企業・業界研究(5)
16. 試験

準備学習

日常生活(買物など)やテレビ・新聞等の報道を通して知る企業活動に興味と問題意識をもって接する。

評価方法

課題レポート30% 試験70%

教科書

必要に応じ、レジュメ等を配布する。

参考文献

必要に応じ、授業で紹介する。

キャリア形成論

概要

1年生後期からスタートする就職活動や編入対策に向けて、将来を見通した選択ができるように、社会人とは何か、人生設計とは何か、自立のために必要なことは何か、今何をすべきかを考えていく。

担当教員	三瓶千香子
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

一人一人が平等に与えられている24時間という「時間」を意識的に捉え、将来を見据えた計画の重要性が理解できること。計画を愚直に行動へ移そうという意識へ変換できること。これを本科目の目標にする。

各回の内容

1. イントロダクション
2. ライフキャリアとワークキャリア
3. 協働することとは
4. タイムマネジメント(1)～何が動きのムダをつくるか～
5. タイムマネジメント(2)～自分の動線を創る～
6. 手帳学～目標の可視化の重要性～
7. 社会人とは何か(1)～チームで定義探し～
8. 社会人とは何か(2)～チームでPPTづくり～
9. 社会人とは何か(3)～プレゼンテーション1～
10. 社会人とは何か(4)～プレゼンテーション2～
11. 藤本篤志『社畜のススメ』を読み解く
12. 滝本哲史『僕は君たちに武器を配りたい』を読み解く
13. 「自分ノート」と“武器”探し
14. 21世紀に求められる能力
15. 総括
16. 論述テスト

準備学習

前回の授業で出された課題ワードについて、まとめておくこと。

評価方法

プレゼンテーション態度30%、論述テスト50%、振り返りシートにおける理解度20%

教科書

特になし

参考文献

その都度、紹介する。

キャリア形成演習

概要

インターンシップを実施する前の心構えと、自身の目標を設定する。
また、インターンシップの自己評価と企業評価について学ぶ。
2日間の集中科目なので、1日休むと単位を取得できない。
インターンシップに参加する学生は、必ず履修すること。
(よって、キャリア教養学科では、必修扱い)
2年生(インターンシップ経験者)に直接インタビューできる貴重な機会を設けている。

担当教員	加藤竜哉
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	集中(2日間)
単位数	1

目標

インターンシップのための事前学習。演習によって、自己を知り、自己を表現できるようになる。基礎演習で経験した自己を探求するためのプログラムを、より実践的・包括的に学び、インターンシップに備えることができる。インターンシップにおける目標を自ら設定することができる。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. OP1: グループを作る メンバーを理解 グループ名を付ける
3. OP2: 「インターンシップって何?(1)」先輩からの情報収集するための準備
4. OP3: 「インターンシップって何?(2)」先輩にインタビューし、グループでまとめる
5. 講評・前半のまとめ
6. OP4: 「インターンシップで得たいこと学びたいこと」をグループでまとめる
7. OP5: 「インターンシップで得たいこと学びたいこと」発表
8. OP6: インターンシップに向けてのアクションプラン作成
9. OP7: アクションプランの発表グループ発表
10. インターンシップ事前研修の総まとめ

準備学習

インターンシップで講義した内容を各自ふりかえっておくこと。

評価方法

個人ワーク&グループワーク態度20%、発表と評価30%、成果物提出50%

教科書

なし

参考文献

その都度、紹介する。

キャリア形成演習

概要

インターンシップの事後学習。
インターンシップで得たこと学んだことを整理し、各自ポスターセッションを行う。

【注意】2日間の集中講義。1日欠席で、単位取得できません。
インターンシップに参加した学生が履修できる。
盛岡のインターンシップ交流大会に参加学生は、履修登録後、この科目の履修は免除される。

担当教員	加藤竜哉
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	集中(2日間)
単位数	1

目標

インターンシップで得たことを自ら整理することができる(前期で学習した手法を利用)
インターンシップで学んだことを個人発表することができる。
インターンシップで学んだことを自身の進路に活かすことができる。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. ゲームでグループホームを作る(パーソナルエコマップの使用)
3. ホームや旅に出て、インターンシップを振り返る(パーソナルエコマップの使用)
4. 自己評価と企業評価の比較から事故の改善点を知る
5. ポスターセッションの準備、ポスターセッション(全員発表)
6. 具体的改善計画を作る
7. 他者の改善計画を参考に、改善計画を修正する
8. まとめ

準備学習

日報、報告書などインターンシップ関連資料を忘れないこと。
インターンシップ振り返りシートを記述する。
企業評価シート(当日返却)

評価方法

1日毎の学習振り返りシート(各20%×2日)、ポスター資料作成30%、改善計画資料作成30%

教科書

なし

参考文献

都度、必要に応じて紹介する。

プランニング入門

概要

この授業では、一つのアイデアを放射線状に広げる思考力の向上を根幹に置く。いわゆる「企画力」である。何らかのたたき台をいかにアレンジできるか、誰かに何かを頼まれたとき、自主的に斬新なアイデアを付け加えて提案できるかということは、将来非常に重視される点である。このような力の礎を醸成することを目的として授業を行う。

担当教員	三瓶千香子
授業形態	講義・演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

事業やイベントを企画したり複数の事業などをつなげ、コンサルタントを行うプランナーという仕事を、理論と演習を通して理解することができる。

各回の内容

1. 本授業の目的と詳細
2. 内容の説明プランナーとは何か。
3. 代表的なプランナー例
4. なぜつまらない企画ができるか。
5. マネジメント論
6. ラフプランニング演習 - 視点 -
7. ラフプランニング演習 - 視野 -
8. ラフプランニング演習 - ニーズ -
9. プランプレゼンテーション-比較-
10. プラン演習(1) - 日常のタスクプランニング-
11. プラン演習(2) - ライフプランニング-
12. プラン演習(3) - ソーシャルプランニング-
13. プランプレゼンテーション-統合-
14. 逆算思考とタイムマネジメント
15. 求められている能力とは

準備学習

週刊誌、テレビ、地域活性企画にアンテナを立てておく。

評価方法

フィードバックシート提出と内容50%、チームワークショップへの積極性30%、成果物20%

教科書

なし

参考文献

その都度、紹介する。

コミュニケーション論

概要

講義中心だが、ミニ実験やグループワークも有り
人と人のかかわりは、コミュニケーションである。今までの生活を振り返りながら、人に対する固定観念の打破を目指す。常に双方向の対話を行いながら、語りかけ・問いかけ・投げかけ、さまざまな視点から、人間社会のコミュニケーションの原点である対人コミュニケーションを学ぶ。
自問自答（考）しながら、心理学の視点も取り入れ学習する。

担当教員	加藤竜哉
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

さまざまな視点で学習した「コミュニケーション」について、自分の文章で課題を作成することができる。

各回の内容

1. コミュニケーションは技術！？（オリエンテーション含）
2. ICTコミュニケーションとリアルコミュニケーション
3. 印象形成と「他者と自己」のイメージ（ミニ実験による課題提出）
4. 自己開示と自己呈示
5. 自己呈示：特に防衛的自己呈示
6. 自己洞察・省察とコミュニケーション
7. アサーションとは：自己のアサーション度を知る
8. アサーション演習（1）
9. アサーション演習（2）
10. WhyをWhatに変える訓練
11. 恋愛コミュニケーション
12. 改めてコミュニケーションって何？（グループディスカッション含）：課題提出
13. 集団コミュニケーション
14. マスコミ・リスクコミ・メールコミ・SNSコミ、LINEコミも？
15. 総まとめ

準備学習

各単元ごとに、普段のコミュニケーションについて振り返っておく。

評価方法

毎回の振り返り40%（日本語ルーブリックに基づく評価）、提出課題60%

教科書

なし。担当教員作成のプリントを適宜配布する。

参考文献

その都度、紹介する。
（特に興味のある部分については、適宜担当教員へ問合せしてください）

TOEIC演習A

概要

This class will focus on the listening section of the TOEIC test. Hints will be provided and mini-tests will be given during every lesson. This course will be in ALL ENGLISH.

担当教員	藤平明彦アンドリュー
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年・2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

The goals are to understand the parts of the TOEIC listening test, gain knowledge of basic listening techniques and to improve individual test scores (with a target of at least 500).

各回の内容

1. Introduction to Accents / TOEIC Listening Test (1)
2. Part 1 (Introduction)
3. Part 1 (Photographs)
4. Part 1 (Photographs)
5. Part 1 (Review) / Part 2 (Introduction)
6. Part 2 (Question-Response)
7. Part 2 (Question-Response)
8. Part 2 (Review) / Part 3 (Introduction)
9. Part 3 (Short Conversations)
10. Part 3 (Short Conversations)
11. Part 3 (Review) / Part 4 (Introduction)
12. Part 4 (Short Talks)
13. Part 4 (Short Talks)
14. Part 4 (Review)
15. TOEIC Listening Test (2)

準備学習

Complete the listening homework activities online.

評価方法

Listening Test improvement 30%, Listening homework 30%, Review Tests 20%, Class Participation 20%

教科書

「Pass the TOEIC Test (Introductory Course)」 First Press ELT

参考文献

リーディングスキルズA

概要

This is a basic reading course of 2,000 words with each unit having a passage of about 300 words. Each topic will include activities about society and culture. This class will be conducted in all English.

担当教員	藤平明彦アンドリュー・高橋未希
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

Students will learn skills to improve their reading ability and comprehension. Learners will also read aloud to each other to practice their pronunciation. Extensive reading material will be used outside of class, as well.

各回の内容

1. Course introduction & Unit 1 introduction
2. Unit 1 review & Unit 2 introduction
3. Unit 2 review & Unit 3 introduction
4. Unit 3 review & Unit 4 introduction
5. Unit 4 review & Unit 6 introduction
6. Unit 6 review & Unit 8 introduction
7. Unit 8 review & midterm discussion
8. Midterm Review
9. Midterm follow-up & Unit 9 introduction
10. Unit 9 review & Unit 11 introduction
11. Unit 11 review & Unit 12 introduction
12. Unit 12 review & Unit 13 introduction
13. Unit 13 review & Unit 15 introduction
14. Unit 15 review & final discussion
15. Final Discussion
16. Final Review

準備学習

Study the necessary vocabulary words for each unit and listen to the audio CD. Complete the comprehension questions after each unit.

評価方法

Midterm Review 30%, Final Review 30%, Vocabulary Quizzes 20%, Extensive Reading / Participation 20%

教科書

『Reading Stream : Elementary 英語リーディングへの道：初級編』金星堂

参考文献

リーディングスキルズB

概要

This is a continuation of Reading Skills A. This is an intermediate reading course of 3,000 words with each unit having a passage of about 400 words. Each topic will include activities about society and culture. This class will be conducted in all English.

担当教員	藤平明彦アンドリュー・高橋美希
授業形態	講義・演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

Students will learn skills to improve their reading ability and comprehension. Learners will also read aloud to each other to practice their pronunciation. Students will complete the passage summaries in groups. Extensive reading material will be used outside of class, and students will present an oral book report.

各回の内容

1. Course introduction & Unit 1 introduction
2. Unit 1 review & Unit 2 introduction
3. Unit 2 review & Unit 3 introduction
4. Unit 3 review & Unit 4 introduction
5. Unit 4 review & Unit 5 introduction
6. Unit 5 review & Midterm discussion
7. Midterm Review
8. Midterm follow-up & Unit 6 introduction
9. Unit 6 review & Unit 7 introduction
10. Unit 7 review & Unit 9 introduction
11. Unit 9 review & Unit 10 introduction
12. Unit 10 review & Unit 11 introduction
13. Unit 11 review & Final discussion
14. Final Discussion
15. Final Review
16. Final Follow-up and Book Reports

準備学習

Study the necessary vocabulary for each unit and listen to the audio CD. Complete the comprehension questions after each unit.

評価方法

Midterm Review 25%, Final Review 25%, Vocabulary Quizzes 20%, Extensive Reading 20%, Book Report 10%

教科書

『Reading Stream: Pre-Intermediate 英語リーディングへの道：準中級編』金星堂

参考文献

コミュニケーションスキルズA

概要

This is a course for students who would like to travel to foreign countries in the future. We will practice the skills needed to have an enjoyable experience abroad. This course will be conducted in ALL ENGLISH.

担当教員	藤平明彦アンドリュー
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教育学科1年
時間数	90分 × 15回
単位数	2

目標

We will practice conversation skills needed to travel abroad and discuss various situations one may encounter in another country. Students will perform role plays using the skills learned in class.

各回の内容

1. Introduction
2. Unit 1 Would you like chicken or fish?
3. Unit 2 Can I have your passport, please?
4. Unit 3 My mother has her own business.
5. Unit 4 Can I check my e-mail?
6. Unit 5 Are you ready to order?
7. Destination: The U.K.
8. Midterm Review
9. Unit 6 Where's the station?
10. Unit 7 Can I use my card in this ATM?
11. Unit 8 Do you have a non-smoking room?
12. Unit 9 I have a stomachache.
13. Unit 10 I'm from Japan.
14. Destination: New Zealand
15. Final Discussion
16. Final Review

準備学習

Complete the homework sheets for each unit in the course. Study the vocabulary and finish the listening activities for the following unit before the next class.

評価方法

Midterm Review 20%、Final Review 20%、Weekly Homework 20%、Vocabulary Quizzes 20%、Class Participation 20%

教科書

『Passport: 2nd Edition (Level 1)』 Oxford University Press

参考文献

コミュニケーションスキルズB

概要

This is a continuation of "Communication Skills A." Students will practice many situations that they may encounter abroad. This class will be conducted in ALL ENGLISH.

担当教員	藤平明彦アンドリュー
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分 × 15回
単位数	2

目標

We will learn necessary vocabulary and conversation skills needed when visiting a foreign country. Students will also perform role plays using the skills learned in class.

各回の内容

1. Introduction
2. What time does it start?
3. Have you been to the islands?
4. I really like rugby!
5. Where should we meet?
6. How about 400 baht for two?
7. Destination: Thailand
8. Midterm Review
9. I'd like to send this to Japan, please.
10. We're staying five more days.
11. I lost my bag!
12. Which bus goes to the airport?
13. What did you like best?
14. Destination: Ireland
15. Final Discussion
16. Final Review

準備学習

Complete the homework review sheets every week. Study the vocabulary words and do the listening activities for the next unit before the following class.

評価方法

Midterm Review 20%, Final Review 20%, Weekly Homework 20%, Vocabulary Quizzes 20%, Class Participation 20%

教科書

Passport 1: 2nd Edition, Angela Buckingham and Lewis Lansford, Oxford University Press

参考文献

異文化理解

概要

This course will talk about culture, language, and communication in a global society. We will also discuss practical communication skills to deal with many cultures in the world. This class will be in ALL ENGLISH.

担当教員	藤平明彦アンドリュー
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分 × 15回
単位数	2

目標

Students will learn about various non-verbal and verbal types of communication. Differences in cultural communication styles will also be discussed. The last half of the course will talk about stereotypes, prejudice, and discrimination. Learners also will give a presentation in English about a nationality of their choosing.

各回の内容

1. Introduction
2. Facial Communication and Eye Contact
3. Gestures and Body Movement
4. Space and Distance
5. Gender and Communication Style
6. Self-Assertiveness
7. Midterm Review
8. Barriers to Communication: Stereotypes
9. Barriers to Communication: Stereotypes
10. Barriers to Communication: Stereotypes
11. Barriers to Communication: Prejudice
12. Barriers to Communication: Prejudice
13. Barriers to Communication: Discrimination
14. Barriers to Communication: Discrimination
15. Barriers to Communication: Discrimination

準備学習

Learn the necessary vocabulary for each chapter and listen to the audio CD to practice reading. After each chapter, complete the comprehension questions.

評価方法

Writing homework 30%, Oral presentation 20%, Midterm Review 20%, Vocabulary Quizzes 20%, Class Participation 10%

教科書

『Beyond Boundaries: Insights into Culture and Communication』, Cecilia Ikeguchi and Kyoko Yashiro, ピアソン・ロングマン

参考文献

観光英語

概要

観光英語検定とは国際人としての英語力を身につけることを目的とし、外国人とのコミュニケーション力を観光の分野を通してその運用能力を計るものである。約3,000語の語彙力・適切な文法・構文の知識が必要とされ、実用英語検定3級に相当する。ここでは旅行者として、また観光業で用いられる一般的な会話表現及び専門用語を学び、観光英語検定3級取得を目指す。

担当教員	佐藤夏美
授業形態	講義・演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

予約関連業務、ホテル関連業務、出入国に関する手続き、機内放送等のアナウンス、食事、通貨、交通機関等、観光・旅行業に必要な専門的な単語および英語による日常会話ができる。リスニングやロールプレイングを通して実際の場面を想定し、英語でのコミュニケーションができる。観光に必須の文化（国内外・異文化）、地理、歴史の知識を深める。

各回の内容

1. Travel
2. Jobs and People
3. Getting on the Plane
4. At the Immigration and Customs
5. At the Airport
6. Review 1
7. Hotel (Accommodations)
8. Restaurant (Breakfast and Fast Food)
9. Sightseeing
10. Shopping
11. Transportation
12. 課題・演習
13. Problems and complains
14. Review 2
15. Traveling in Japan
16. 試験

準備学習

テキストを予習し、新出単語及び表現を確認しておく。ユニット毎の単語テストに備え、継続的に学習する。講義で指示がある部分については自己学習とし、英作文の添削を希望する場合は随時提出する。

評価方法

単語テスト20%、中間確認テスト30%、学期末テスト30%、課題20%

教科書

全国語学ビジネス観光教育協会・観光英検センター編 『ENGLISH FOR TOURISM Basic』 三修社

参考文献

その都度授業で紹介する。

英語演習 (Basic)

概要

グローバル社会では、相手の考えを理解し、自分の考えや意見をはっきりと主張することが重要になる。そのためこの授業では英語の「話す・書く」という発信型の技能に焦点を当て、日常生活の中で使うことができる英語表現を学ぶ。手塚治の有名な漫画を題材にしながら、反復学習をしながらさまざまな話題について実践的英会話の能力を養成していく。

担当教員	高橋未希
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	キャリア教養学科1・2年
時間数	時間数 90分 × 15回
単位数	2

目標

英語を用いて積極的にコミュニケーションをとる姿勢を育成する。
英語を理解する上で必要になる文法や語彙を学習し、定着させる。
会話の中で必要な言い回しについて理解し、実際に運用できるようにする。

各回の内容

1. Introduction
2. Introductions and Biographical Information
3. Describing Events
4. Exchanging Opinions
5. Polite Conversation
6. Cooperating
7. Asking Favors
8. Talking About Plans
9. Giving Advice
10. Making Responses
11. Proposing Ideas
12. Making Arrangements
13. Agreeing and Disagreeing
14. Talking About Experiences
15. まとめ
16. 期末試験

準備学習

毎週課されるライティングの宿題を終わらせておくこと。
自分の立場や意見を述べることが求められるため、普段から様々な社会的物事に対して関心を高く持ち、意見を用意しておく。

評価方法

Paper Test (試験) 40%、
Speaking Test (単語テスト) 20%、
Writing Homework (宿題) 20%
Class Participation (参加態度) 20%

教科書

"In My life"(マクミランランゲージハウス)

参考文献

必要に応じて指示する。

キャリア教養特講

概要

自らのキャリアを考えるにあたって、どのような進路を取るにしても綿密な情報収集が必要となる。そのために、この科目ではインターネット上の様々なデータベースや図書館にある図書や雑誌などを用いた情報探索の方法を学び、自らのキャリア形成につながる情報収集を行う基礎を身に着ける。具体的には、Web検索の基礎から、就職・編入志願先の情報収集法、そして得た情報の利用に関する注意点に至るまでを論じ、演習を実施する。

担当教員	木川田朱美
授業形態	講義・演習
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

- ・自らのキャリア形成の過程に応じてなんらかの情報要求が発生したときに、適切な情報資源を発見できるようになること。

各回の内容

1. イントロダクション
2. サーチエンジンを使って一般的な事項を調べる キーワードの選定
3. サーチエンジンを使って一般的な事項を調べる データベースの選定
4. 書誌データベースを使って図書の探し方を学ぶ
5. 書誌データベースを使って雑誌記事の探し方を学ぶ
6. 文献探索ゲームの実施
7. 組織に関する情報の探し方を学ぶ 起業編
8. 組織に関する情報の探し方を学ぶ 大学編
9. 人物に関する情報の探し方を学ぶ
10. 公的情報に関するインターネット情報資源の探し方を学ぶ
11. 文献探索ゲームの実施
12. 収集した情報の適切な利用について 著作権
13. 収集した情報の適切な利用について 著作権
14. 収集した情報の適切な利用について 引用
15. まとめ

準備学習

インターネット・書店・図書館に慣れ親しんでおくこと

評価方法

毎週の演習課題100%

教科書

本学作成資料を配付

参考文献

都度案内する

キャリア教養特講

概要

本授業は、ミクロやマクロの経済論を学ぶものではない。具体的な企業を取り上げ、分析研究し、サービス業に通底しているものは何かを見つけ出すことを軸とする授業である。ワークを含んだ講義とし、自ら体験することでの「気づき」と議論を通じての「他者の意見を学ぶこと」を重視していく。

担当教員	三瓶千香子
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

様々なサービス業に共通する根幹的、本質的な部分を理解できる。さらに今まで気づかなかった戦略に意識を向け、経営的視点を持つことができる。

各回の内容

1. イントロダクション
2. サービスとホスピタリティ
3. ディズニーランド研究(1)
4. ディズニーランド研究(2)
5. ディズニーランド研究(3)
6. サービス業の人材育成戦略
7. ストアコンパリゾンと消費者心理
8. コンビニ研究(1)
9. コンビニ研究(2)
10. コンビニ研究(3)
11. コンビニ研究(4)
12. 冠婚葬祭業研究(1)
13. 冠婚葬祭業研究(2)
14. 日本人とサービス
15. これからのサービス業の展望～総括
16. 筆記試験

準備学習

普段からサービス業界のニュースにアンテナを立てておくこと。

評価方法

振り返りシートにおける気づき30%、ワークにおける積極性20%、プレゼンテーション20%、記述試験30%

教科書

特になし。

参考文献

その都度、紹介する。